

玉野市立学校適正規模・適正配置検討委員会 第8回会議 会議録（要約）

■日 時 令和5年10月4日（水）15：00～17：00

■場 所 産業振興ビル3階 技術研修室

■出席者 ○委員 15人

金川 舞貴子委員長 栗林 太一郎副委員長

中島 正人委員 木津 直美委員 森 幸絵委員 大内 雄一郎委員 西宇可奈子委員

兼松 勲委員 今井 克則委員 木村 俊一委員 諏訪 祐子委員 濱松 正江委員

三浦 康男委員 浅浪 康延委員、近藤 奈々委員

○事務局 6人

玉野市教育委員会教育長 多田 一也 教育次長 小崎 隆 教育総務課長 琵琶 学

教育総務課課長補佐 清山 智保、学校教育課長 的場 佳代 学校教育課課長長補佐

高木 文彦

○教育委員（オブザーバー） 2人

教育長職務代理者 三宅 英次 委員 太幸 実千代

■傍聴者 11人（うち報道関係者1人）

1 開会

事務局： 要綱第6条第2項により、委員の半数以上が出席しているので、会議として成立することを報告する。

2 議事（要綱第6条第1項に基づき、金川委員長が議長となる。）

（1）第6回、第7回会議録の確認について

委員長： 今回の会議についても公開とするが、よいか。（委員了承）

事務局： 会議録の確認に入る前に、鉾立小学校について報告させてもらう。

新聞報道で既にご存じの方もいると思うが、鉾立小学校の木造校舎については、耐震基準を満たしていないことから、児童の安全確保のために令和7年4月から休校とし、値上げ小学校にスクールバスで通学する方針を議会へ報告した。鉾立小学校については、平成27年度から約8年間の間木造校舎の耐震化やプレハブ校舎の整備など保護者や地域の方々と様々な案を検討してきたが実現できなかった経緯がある。この検討委員会の議論とは別に考え、児童の安全確保のために取り組んできたことから、個別の案件として、これまで伝えていなかった。この場をお借りし報告とさせてもらう。

議事録は事前に内容を確認いただいている。改めてお気づきの点があればご指摘いただきたい。（特になし）

（2）小学校適正規模化の具体的な方策について（前回会議続き）

委員長： かなり議論を長く続けてきて、残りの回数は恐らくあと1回ぐらいという形の予定で、次回が最終回ぐらいかと予定をしている。今回のゴールは、既に

目を通してもらっていると思うが、まだ全部が埋まっていない、議論を尽くせていないところがあるので、本日はそこをまず形を作っていくところをゴールにしたい。まず、小学校の適正規模化の具体的方策について、統合の時期、タイミングについて大まかに検討してもらいたい。中学校に関しては生徒数の推移を見ると生徒数が100人台を切った時点で着手したらどうかというようなこと、あるいは緊急度の高い山田中学校については早期にやっていく必要があるということが書かれているが、小学校に関しては少し議論が曖昧になっているところが多い。その後、通学距離や手段について。今までもバス云々ということがあった。そのあたりについて検討いただく。そして最後に答申（素案）の後半の留意点、学校規模の適正化等に伴ってどんなことを検討してもらいたいのか、ということに関して、いくつか論点が出ている部分について検討いただきたい。

（グループ議論）

グループ1：（委員1）小学校の適正規模化のタイミングであるが、既に複式学級になっている地区、後閑小や鉾立小、山田小は、令和9年から行ったらいいのではないか。段階を踏んで、年度ごとに2つ、3つに分けて行ったらいいのではないかという話になった。日比小、二日比小は、令和13年、玉原小はその後の様子を見て、という感じで2回、3回に分けてやっていったらどうかという話があった。タイミングは、複式学級になるタイミングが、ポイントと思う。地域による転入出の変動を、教育委員会がしっかりと実態調査を行いつつ、その人数よりも増減があると思うので、そうなれば、統合を延期してもう少し様子を見ようということもできると思う。その地域による転入出の変動はしっかりと勘案してもらいたい。

委員長：複式学級がこの先も続くだろうというタイミングで段階的にやっていったらよいのでは、という意見であった。

グループ2：（委員2）小学校の統合の時期を検討するにあたっては、中学校のことも一緒に考えないといけないと思う。まず中学校の統合の方が急ぐと思う。今まで議論してきた中学校は、適正規模は、1学年3クラスぐらいがいいというのがあった。適正規模の中学校が2つ、もう1つは小規模中学校が1つある方がいいという基本的な考えになったのは、第1段階は、既存の校舎を使わざるを得ず、新しい校舎を建てることできないというところからスタートしないといけない。ということで、小規模中学校が1つ必ずできる。そのときに、小規模中学校というのは、どこかの学区の人だけが通う学校ということではなく、玉野市のどこの学区からも、その小規模中学校に通えるようになってないといけないと思う。その上で、中学校の統合は急ぐので、2年後の令和8年4月に統合になったとすると、そのときに小学校の統合の準備を進めたとしたら、2年間は実務的に絶対かかると思う。でも小学校の場合は、もう少し丁寧に作業を進めないといけないこともあるだろうと思う。学校の校歌であるとか制服のこととかいろいろなことがあるので、小学校はもう少し丁寧に、先に中学校が統合した後に小学校はさらに3年後というのがいい

と思う。統合は、中学校は全体で同時にやる。小学校も同時に検討をスタートしたほうがよい。その中で、鉾立小学校が1年半後に休校して、胸上小学校に集約される。後閑小学校についても、校舎とまた違う問題、人数の問題であるが、後閑小学校を休校にして、胸上小学校に一旦集約する。これを早くやる。例えば令和7年4月で後閑小学校も休校にしておいて、同時に玉野市全体の小学校が統合して、6校なら6校にしたほうがよいのではないかという考えである。学区についても、いろいろな目安はあるが、学区の端っこに住んでいる方は、隣の学区に通えるような選択肢もあった方がいいと思う。小学校の統合の時期は、中学校のことを進めながら小学校も同時にスタートする。中学校は2年間かかる、そして小学校は3年間かけて、一緒にしていった方が本当に玉野市全体のためになるんじゃないかという考えである。答申案の中に中学校の統合時期は生徒数が100人を切った時点であるとあるが、ちょっと違うかなと思う。今の現状を考えれば、同時に行うことが必要なのではないか。今までの議論で我々が提案させてもらった中に、中学校は最初3つ、適正規模中学校2つ、3つ目が小規模中学校、今の玉野市の人口の状況から考えると、小規模中学校は誰が来てもいいということにしている、もしかしたら本当に子どもの数が少なくなりすぎて、いずれどこかと統合しないといけない時期がくると思う。学校名をせっかく考えてスタートしても10年ぐらいで、もしかしたらまたどこかと統合になるかもしれない。そういうことを考えると、私が以前から言っているように、東中学校、西中学校というのがあって、例えば東方面に小規模中学校を作るのであれば、東中学校の分校的な存在で、小規模中学校というのをスタートさせて、どうしてもそこに生徒が通わなくなってしまうのであれば、統合が将来あるのではないかという考えである。例えば、小規模中学校を西に作ってもいい。小規模中学校は適正規模中学校のどちらかの分校的な存在にしておいて、学校名が変わることがないようにしてもいいのではないかと、というのが我々のグループで出した意見である。玉野市は1年間250名ぐらいの子どもが生まれて、小学校上がる前に浦安とか、茶屋町とかに引っ越して行って、何人残るかわからないが、そういった中で、本当に小規模中学校を選択してもらえるのかということもある。どこまでが限度かというのはここではわからないが、そういったことも含めて考える必要がある。小規模中学校、小規模小学校のスタートのときに別の委員が言われたような義務教育学校でスタートを切ってもいいと思う。でも人数が減ってしまったときは、東と西の二つに集約する必要がいずれ来るのではないかと。それまでの2年3年の間は今の既存の中学校の校舎を使うのはいいが、どこに新しい校舎を建てたらいいかということは、早急に検討をして、同時に進めるべきだと思う。

委員長： とてもスピード感のあるスケジューリングを出してもらったと思う。

グループ3： (委員3) 私達のグループは先ほどのグループと同じように、まず中学校の統合のタイミングから考えてその後小学校を検討する、ということで、山田が急ぐため令和8年ということで、他の中学校は、その2年後の令和10年と考えた。小学校の配置のことで、今まで日比中学校区は日比小学校、二日比小学校、玉原小学校と玉小学校で4校で一緒になるという意見で話が進んで

いたが、段階を追って日比小・二日比小と、玉原小・玉小を統合する方がいいのではないかという話が出た。日比小学校は、校舎が新しいということがあるのと、通いやすさや距離的な面などを考えて、人数も10年以上は、複式学級にもならないということがあり、私達のグループは小学校は7校で考えた。その際、先ほど言ったように中学校が令和10年に全部統合された後に、中学校と小学校を一気に、というのは難しいということで中学校の統合の後、小学校は、2年3年の準備期間を設けて、統合する方がいいのではないかということになった。

小学校の統合のタイミングであるが、全部が一気に何年の4月開校がいいのか、その小学校によって、1年2年のばらつきを持って統合するのがいいのかというのが、私達には事務的な面とかわからないということで、どっちがいいのかなというところで話が止まっている。最後に出たのが、鉾立小学校が休校する令和7年のときに、後閑小学校と山田小学校が全部集まって一気に統合することはできないのかという案も出た。

委員長： 事務手続き的に時間がかかるところまで、我々がどこまで考えるかということであるが、基本的にはできる限り早めに、ということになるか。

グループ3： (委員3) 複式にならないように、段階を追ってということである。

委員長： 中学校をベースに、早急に事務的手続きを進めて、小学校も同時にやりながら早く手を打っていくということと、少し段階を見ながら小刻みにやっていくというような案に分かれているという感じである。まず100人というのは意見の一つとしてはあったが、答申に載せるものになりうるかということ、ちょっと違うのかもしれない。どの辺りで落としどころをつけるか。複式が見えてきたらすぐということも一つあるが、そこで早急に一気にやるのか、段階を入れながらというのはどうだろうか。

委員1： 一気にやるのはちょっとまずいと思う。私の住んでいる地域で意見を行くと、ほとんどの方がギリギリまで残してほしいということを行っている。小学校がなくなるということが考えられない。何十年も前から単学級なのに、何でいきなりこんなことを言われなきゃいけないのかというのを言われた。結局お金のことじゃないのかということも言われた。我々は教育的視点から答申を求められていると言ったら、適正規模なら、大規模校から小規模校へ人を動かしてもらってくださいと言われた。それがなぜできないのかと言われた。適正配置についても、統合するのであれば、中間地点に小学校を作ってほしいと言われた。教育的視点から考えるのであれば、そういう話も別に出ているのではないかということも言われた。やはり小学校は慎重に行ってもらいたい。

委員長： 書き方として、ここを並列して書くか、統合するにあたっては慎重に、その地区に理解を求めていくということは、附帯事項にも載せていることなので、そこに盛り込んでいくということもできるかもしれないと思う。個人的には、1年2年ずれて統合していくことになると、前回意見がでたが、子どもたちが混乱する。保護者も、常にうちは異動するというのが見えながら過ごしていくのは、不安定な状況が続くのかなと思う。統合してから、これは我々の学校だということまで作り上げていくことに、実はエネルギーを費

やすというのも大事なんじゃないかなと思う。そこからみんなで一から作るんだという意識を最初に作るというのが結構大事なんじゃないかなと個人的には思うところもある。統合したら終わりではない。むしろそこから一步が始まるというところだと思う。今のところ複式が見えてくるというところが大きなきっかけで、もう先が見えているんだから早くしたらいいんじゃないか、あるいは丁寧にしていったらいいんじゃないかということが意見として出ているので、ここを並列する形で答申には載せるように考えてもらって、どちらかに重きを置いて残すのか、附帯事項に入れていくのかということも文章になってから検討していきたいと思う。小中学校と連動して書かないといけないのかなというのがある。

### (3) 通学距離（手段）について

委員長： 次に、通学距離や通学手段についてどうするかを考えたい。

小学校は概ね4km、中学校は概ね6km、通学時間はおおむね1時間ということになっているが、実態に応じてということになっている。このあたりについて具体的な方針を出してもらいたい。バスということは、前回からずっと出てきていると思うし、あとはそれぞれの地区で峠があるだとか、ここは危険だとかいうことに応じた工夫点というのでも今まで出てきたと思う。改めてここを盛り込みたいということをもとめてもらいたい。

#### (グループ議論)

グループ1： (委員1) 通学の手段は、基本的にバスか歩き、中学校でいえば、自転車もあるが、小学校だとバスと歩きになると思う。基本的に選択制にしたらかどうかという話があった。歩きの子は、1キロ圏内は歩き、それ以上は全員バスもしくは歩きを選べるとしたらどうかという話でまとまった。1キロから2キロとしたが、基本1キロぐらい、15分ぐらい程度の地域以外の子たちはみんなバスで来れる。その際にバス当番というのは大変なので、その先の話になるが、ICチップでピッとやったら、ちゃんと誰が乗ったというのでもわかるように、保護者に負担がかからないような形で進めてもらいたい。中学校に関しても同じである。中学校がその中に自転車が追加されるという形である。

グループ2： (委員2) 我々のグループは、学校からの距離が遠くてもバスを使って時間にして30分ぐらい。例えば、目的の学校から遠くに住んでいても、近くに住んでいても、バスに乗る場合は遠くの人でも近くの人でも、30分で来れる。距離によって、あまり通学時間に差がないようにすることが必要じゃないか。玉野市はどこに住んでいても、ほぼ同じような時間で通学ができる平等性っていうのはあった方がいいのではないかという意見である。それから、基本はバスでという考えであるが、そのバスの停留場所に保護者が車で送ってくることもできるし、自転車でそこへ乗っていくことも出来て、徒歩も含めて、そこが安全な場所である必要があると思う。それから早く来て待っていたらトイレとかもゆくゆくは必要じゃないかなと思う。自転車で来た場合は、自転車小屋も必要かもしれない。

それから選択制というのもある。近い人は、徒歩や自転車という選択肢もあってよいと思う。それから、中学生で自転車で通うことが危険な場所は、バスも利用できるようにする。基本、これからはバスの時代じゃないかなと思う。いろいろ意見が分かれた。中学生は自転車で行っていいのではないかという意見もあった。もう一方で最近イノシシだとか、急な大雨だとかそういったときに本当に自転車で大丈夫なんだろうかという不安もある。その辺はこれからもう少し議論する時間が欲しいかなという感じであった。

グループ1：（委員1）補足である。基本的には、既存のバス停を使うというのを、前提で考えた。

グループ3：（委員4）徒歩の今の基準として、4キロというのは荘内で言うと荘内小学校から深山公園の下までで、徒歩である。想像してもらおうと4キロの遠さがわかってもらえると思う。私たちは2キロぐらいで、全員がバスも徒歩も自転車も何でも選べるようなのがいいなと思った。バスのキャパを考えたときに、ある程度2キロぐらいの線引きがあるといいのかなと思った。今、荘内学区とかは何割負担かでバスに乗っていると思うが、バスを利用する子は全員無料。IC化してランドセルとかに付けて、出欠が確認できて保護者の負担を少し軽減できるといいと思う。それから、地区によっては、他の子のサポートが難しい地区もあるという意見も出た。地域の中で育つというのが、今までも議論の中で出てきたと思うので、そのあたりは統合した後にも地域の方々の力を借りて、バスにうまく乗り降りができるようになるといいかなと思う。今、家族送迎が増えているので、家族が学校に自家用車で送迎ができるということも視野に入れて送迎ができるスペースが学校の傍にあるといいと思う。スクールゾーンの適正化ということで、今、日比小学校の前のスクールゾーン規制がかかっている時間帯が子どもの登下校の時間と合っていないことが、早急にどうにかしてほしいという保護者の意見があるようである。シーバスのようにうまくコミュニティバスとの併用をできたらよいというのが、一つ案として出た。私たちのグループでは、岡山市の山南学区の義務教育学校の話が出たが、その地域では、地域の方も乗れる、登下校にもバスが使えるみたいなシステムになっているという話も聞くので、そんなことも参考にできたらいいと思う。

委員長：ここは何となく集約がいけそうな気がする。大体徒歩1、2キロというところか。4キロはやっぱり長い。とりあえず全部盛り込んでおいても、並列しそうな感じだと思う。選択制としても、そこに自家用車で送ってくるのもよし、コミュニティバスを利用するのもよし。無料は必須。現状は負担していても無料で、IC化無料。あとはこの辺りは、附帯事項に、配慮してほしいということでの安全性の問題というところが入ってくると思う。おおよそバスを使って、2キロの徒歩、全域がバスで通える。そこは選択にする、あるいは自転車を含める、ちょっとそこは議論できるところかもしれない。自転車で通う、バス利用とする、このあたりは選択するのか決めてしまうのかというところがあるかもしれない。そのあたりは個別なところも出てくるのかもしれない。平等な時間で。とりあえず現時点の案として答申に盛り込んでもらって、配慮していくところは附帯事項のところ安全への配慮とかいうところ

で書いてもらってもよいと思う。コミュニティバスや地域との連携のあり方も考えてもらうことも加える。

#### (4) 答申(素案)について

委員長： 今までの議論を振り返って、あるいは他市の答申等を参考に、いくつか事例を事務局の方で挙げてくれている。これに加えたいこととか、ここはもう少し強調する形で書きたいというあたりを挙げてもらいたい。今後、前半部分についても修正したいところが出てきたら協議しながら、整理していく。

#### (グループ議論)

グループ1： (委員1) 我々のグループは、まず児童生徒にとっての環境変化の対応については、県から教員が配置されるのは別で市でしっかり教員の配置を手厚くしてもらえるように予算をつけてもらいたい、というのを付け加えたい。統合する場合、かなり早めの説明と、統合する前に、児童生徒の交流以外にも保護者間の交流もしてもらいたいという意見が出た。それと経済的負担への配慮に関しては、中学校の制服は今、玉野市内全部同じになっていると思うが、小学校も統廃合関係なく市内全部同じ制服にして、そうすることによって、例えば、他の地区に知り合いがいて、その地区の方から制服を譲ってもらえるようになる。例えば、日比小は茶色の制服だが、大崎小は紺色だからそれが使えないということも解消されて、経済的な負担も減ると考えている。制服に関しては、早めに小学校は市内で統一して、その制服に関しても玉野市のカラーを出して、ブランドとして玉野市の制服はこうなんだというのも一つポイントにできるのではないかという話が出た。

地域との関係については、地区との関係を継続するための工夫をしっかりと行ってもらいたい。コミュニティの方も、コミュニティAとBがあってその地区が一緒になったときに、仲が悪いコミュニティとか、関係がよくないコミュニティがあるので、その辺もきちんとコミュニティがちゃんと変化できるような形で予算を使えるようなことをしっかりとってもらいたい。要するに、予算確保がすごく重要になってくる。個人的に調べたが、玉野市の教育に充てる予算は2021年は22.3%である。全国平均は20%なので2、3%ほど上回っているが、他県で見ると30%を超えている県もある。この会は教育的視点から答申を求められているので、玉野市はしっかり教育費にお金を使っているところをアピールする目的の一つとして、もっと教育費の割合を上げてもらえるように、教育委員会が働きかけてもらいたい。もし統廃合された場合、学校が減った場合、維持費がかなり減ると思うが、その際の浮いたお金を、玉野市が他のことに使うことをさせないように、教育費がこれだけ浮いたからよそに使うのではなくて、それをきちんと子どもたちのために使うという約束をしてもらいたいと思う。

グループ2： (委員2) 我々のグループは、一番大事なこととして、児童生徒にとっての変化への対応、これが一番大事なんじゃないかということで、学校規模の適正化に伴う留意点の項目の一番上に持ってきてもらいたい。

それから2番目として、地域の拠点機能や連携のことも入っていて、文章としては非常に良いが、地域との関係の希薄化を防ぐということの中に、その2行目の「各地区の行事と連携した学校行事を計画するなど」、例えばこの後に、「地域と連携して」というような言葉を加え、地域と連携して地域に密着した学校運営に取り組むこと、連携というところを強調したい。例えば、地域からいろいろな案内を出すときに、今まで、学区の中だけで行事の案内をしていたとしても、学区が広がったときには、隣の学区の子どもたちに、「ぜひこの地域に遊びに来てください」とか、「行事に参加してください」という案内が伝わると、より広く地域間の連携が取れるようなことにも繋がっていき、学校も良くなるし、地域も良くなるのではないかという考えである。

それから3番目として、施設設備面の充実というところ、「統合等に伴い校舎を新築する場合や」、とか「改築する場合は」とか、「既存施設等の有効利用を図る場合には」、全部「場合には」と書いてある。ではなくて、統合して、既存の校舎を使いながらスタートを切るだろうが、そうなる場合というのではなく、そうしなければいけないと思う。老朽化が進んでいて、いつまでも老朽化した設備をずっと子どもたちに使わせるということではない。急いでも、10年かかるかもしれない。いい場所にそれなりの校舎を建てるという時期が来るまでに10年かかるかもしれない。その場合を待つのではなく、同時に、統合もしながら統合のスタートになったらどこに拠点を置いたらいいのかということをしるべきだと思う。それをぜひ「場合」という表現を改めて、そのために子どもたちのためにというような表現になるようにしてもらいたい。

委員長： ある意味、何を指すのかというところをきちんと見据えて、戦略性を持って動いてほしいという強いメッセージだと思う。こうしていくんだという中で、逆算的に手順を追ってほしいということだと思う。そのスタンスは、予算にも繋がってくるころなので、強く求めたいというところである。

グループ3： （委員5）私たちのグループでは、既に他のグループで出たこともあるし、既に書かれていることもあるが順番に説明する。まず、制服等の用品だが、最初のグループでも出たが、中学校のように市内である程度統一していくとか、体操服は、上は白、下は紺の動きやすい服ならOKとか、緩やかにしていくとか、小学校の制服に関しては中学校を前提にしながら、新しく購入するとか、金銭的な負担を減らしてもらえたらいいという意見が出た。

2つ目として、先ほども言われたが、答申の中に新しい校舎を建てる場合というような文言があったので、結構期待してしまうところもあるのかなと思った。新しい校舎を建てずに今は考えるということに基づいて話をしてきたと思うので、そうであればそういうふうにも書いてもいいのかなと思う。ただし、この委員会の中で、長期的に見て、新しい学校を建てる話はたくさん出てきたと思うので、そういう話し合いがなされたということを感じてもらいたいと思った。

それから3つ目、地域とのことであるが、文言の中にはあったが、統廃合の準備の段階から地域の方にも関わってもらいたいと思った。それも含めて、統廃合が決まったら、検討する段階から、準備委員会が立ち上がると思う。



学校運営協議会という組織があるが、そこには、実際、保護者がなかなか関わっていないという現状もあると聞いた。準備の検討する組織を作るにあたっては、地域の方も含めて、保護者を中心に新たに準備委員会というのを作って、準備したいという話が出た。それから生徒同士の交流については、答申案の中に書かれていたと思う。具体的には、行事を統廃合する学校で一緒にするとか、修学旅行を一緒に行くとか、生徒同士の交流を十分に図って、名前を呼び合えるぐらいとか、一緒に行事をする中で、あの子たちと今度一緒の学校になるんだ、と楽しみになるように、十分な交流が欲しいという話が出た。それと同時に、地域や保護者の方の交流も行事を一緒に行うなどで図ってもらいたい。保育園同士の統合の場合にはできていなかったという声も出たので、保護者同士の交流というのがなかなか十分に現状、保護者同士、地域の方同士っていうのも、そういった生徒同士の交流と一緒にしてもらいたいという意見があった。先ほどの通学距離について補足であるが、先ほど2キロという線を引くという話が出たが、地域によって峠があるとかイノシシが出るとか、安全性の問題が2キロという線だけだと、難しい場合もあると思うので、そういうところに配慮して例外を設けて欲しいという話も出た。

委員長： 大体それも盛り込んでいける内容だと思う。制服のことも共通している。地域との関係の希薄化を防ぐというよりは、新しい玉野の学校を作っていく、前向きにしたいというのが最初からあったんだと思う。そう思ったときに、希薄化というよりは、新しく最初から言っていた玉野の子どもは玉野で育てていくんだということから、新しくちゃんと地域と保護者がどういう教育をしていくのかということ、もう1回きちんと編み出していく、関係を作っていくというきっかけになったらよくて、今あるものを何とか残すためにやろうみたいなイメージとはちょっと違うのかなというふうに思った。地域との連携にしてもそうである。学校も地域も保護者も新しく作っていくというような感じで、加えられるんじゃないかと思う。あとは準備段階の配慮であったり、教育課程の工夫の部分、そこに地域の方も入ってもらっての行事等々、多分、地域教材をうまく生かしていくということが、制度はあるけれどももうまく実働していなかったという部分もあるのかもしれないが、これを機に発展していったらいいのかなと思う。そのあたりをもう1回事務局の方に加えてもらい、新しく出来たものを配布してもらって、次回のときには、この表現で本当に思いが伝わるものになるかというところで議論してもらえたらと思う。これ以外のところで、ご意見に関して事前にメールで事務局に出してもらって、そこについて新しく出てきたもので協議をしたいと思う。

委員1： 前回、私が発言した内容を少し修正したいと思う。「もし地域の方が学校をつぶして欲しくないから複式がいいと言っているなれば、それは本当に子供のためになるのかなと思う」という7回目の議事録の4ページ、これを書き直していただく必要はないが、「学校をつぶして欲しくないから複式がいいと言っているのはそれは本当に子供のためなのかなと思うというふうに発言させてもらって、いろんな委員の方から共感してもらった。しかし、私自身いろんな方とお話させていただく機会があって、やっぱり学校を潰して欲しくない

という意見がすごいあるというのを、直接保護者の方と話をした上で感じた。学校がなくなると皆さん不安になるのは、やっぱり新しい地域に移り住む方が減る。移り住む人、子育てを考える人が減っていく。若い人が出て行く。人が減っていくとそこにある商店や病院などが減っていく。ある方は若い人がいなくなることによって住んでる土地の価格も下がるとか、いろんなことを心配している。我々は、教育的視点からしか答申を求められてないが、最初に発言させてもらったとおり、新しい学校を作るのはお金がかかるから、今は既存の学校でと言われ、結局、教育的視点からという教育委員会のやり方が、ちょっと違うんじゃないかなと思う。実際、予算のことも我々は考えることになってしまったし、そういった面からもやはり教育的視点、予算、あと人口を縦割り行政じゃなく、横の繋がりを、最初にこの会議で作ってもらったと思う。第7回の人に私が発言した学校をやっぱり潰して欲しくないという方はその地域だけの方に限らず、保護者の中にもたくさんいるってことをしっかり理解してもらって、統廃合の話をするのであれば、一つ一つきちん耳を傾けて、準備委員会などで話をしてもらいたい。ある保育園は、統合して一緒になる時に、結構強引にされたという話も聞くので、丁寧な話し合いをさせてもらう機会を設けてもらいたいと考えている。